

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道

発行日 平成29年7月26日

中連大会を通して

東陽中学校長 小野寺 憲治

1学期が本日で終了します。学校だよりやホームページ、学年・学級通信等を通して今学期のお子様の学校生活の様子や活躍・成果等をご確認いただいていることと思います。

今学期心に残った中連についてご紹介します。中連夏季大会は、数年前から6月下旬に開催されています。全道・全国大会への申し込み期限が早まっている関係からそのようになりました。毎年繰り返される子ども達の熱い戦いを今年も観戦しました。リーダーとして各部を牽引してきた3年生にとっては集大成の場であり、その活躍が印象的でした。当然のことながらスポーツ競技には勝敗はつきものです。そこでは個人やチームの力が100%発揮できるとは限りません。いつもと違う雰囲気や試合展開に首をかしげながら必死に戦っている選手の姿も見られました。

初日、全校応援で臨んだサッカー大会。以前の対戦では0-2と分が悪いチームとの対戦でした。1点を先制され、やや気持ちに焦りを感じた様子にも見えましたが、1点を奪い取り同点、更に1点をもぎ取りリードしました。何とも見事な攻撃でした。選手も応援生徒もこのままで終了することを祈りましたが、地力に勝る相手チームに1点、2点とリードを広げられ2-4で敗れました。

翌日は野球大会の全校応援でした。先制を許しましたが、2点を取ってリードし、またリードされ、再度リードしましたが、同点とされ延長に入りサヨナラ負けとなりましたが、見ているものに勇気と感動を与えてくれるものでした。息詰まる試合展開に野球の醍醐味とスポーツのすばらしさも併せて感じたところです。特筆すべきは、有志十数名の応援団の存在です。その多くはシニアリーグ等で活躍する仲間でした。太鼓をたたき一丸となり必死に応援する姿にプレーする選手は勇気をもらい、最高のパフォーマンスを見せてくれました。また、スタンドと選手が一体となり頑張る姿に感動をもらいました。

男子バスケットボール部は、昨年の中連大会後、勝てない我慢の日々が続きましたが、徐々に力を付け今大会前にはシード権を得るまでに成長しました。初戦、二回戦の相手とは力の差はほとんどなく、互角の実力のチーム同士の対戦でした。勝利するためには、流れを引き込まなくてはなりません。初戦は第2ピリオドまでは両チーム共に堅さが見られ、ロースコアの試合展開でしたが、第3ピリオドに入り自チームの選手が放った3Pシュートがバスケットボールカウントとなり、そこから流れが東陽中に傾き、怒濤の攻撃から終わってみれば大勝でした。三日目は、決勝進出をかけて全校応援で臨んだ試合でした。じりじりと点差を広げられました。しかし、スタメンと交代した選手が、自分のプレーに自信をもち、臆することなく伸び伸びとプレーする姿に、生徒は試合で成長することを改めて思い知らされました。毎日続けてきた地道な練習が土台となり、決してあきらめない気迫あふれるプレーをする姿に、応援生徒も点差を忘れて一生懸命応援しました。ここでも素晴らしい生徒達を見ることができました。東陽中生として、また一部員として誇りをもって躍動する姿が大変すばらしく感じました。

各部のどの試合からも必死に努力する戦う姿が見られ大満足の中連大会となりました。

さて、いよいよ明日から夏休みに入ります。保護者の皆様には、①自分のペースでしっかりした生活を送る。②1学期間の学習内容の確実な定着に向け家庭学習に取り組む。③家事を分担し、地域行事にも積極的に参加する。④安全第一を心がけ交通事故、けが、さまざまなトラブルに巻き込まれない。など、お子様の家庭生活の充実に向けご指導をお願いします。

生徒の皆さん、2学期に元気な姿で再会することを楽しみにしています。